

平成30年10月21日
今週のベストショット



奈多グラウンド 三苦ホーネッツ 対 奈多クラブ戦

奈多クラブの3連覇を阻み、自力で優勝を勝ち取ったホーネッツによる中村監督の胴上げ。

写真：三苦三球会 半田 晃大

青松園B ブルーマーリンズ最終回に追いつき悲願の勝ち点

レッドサンデーズ（4勝6敗1分）0 3 5 0 8 塚本—前田

ブルーマーリンズ（0勝9敗1分）4 2 0 2 8 佐藤—横山（健）

HR：田浦（レッド）佐藤（ブルー） 3BH：佐藤（ブルー） 盗塁：八島、前田（レッド）、中村（ブルー）

一回表、レッドサンデーズは先頭川原（正）選手がバント安打で出塁すると、すかさず盗塁を狙うもブルーマーリンズ横山（健）捕手が矢のような送球でアウト。先発佐藤投手の冴えたピッチングで後続も抑えブルーマーリンズ幸先の良いスタート。そして一回裏、ブルーマーリンズは一死後二番末松選手が内野安打で出塁。三番佐藤選手のレフト前ヒットと相手ミスで一死二三塁とすると、PBで先制点を挙げる。さらに糸井選手の適時打などで初回到4点を奪い、ブルーマーリンズ今日はいけそうな予感。しかし二回表レッドサンデーズは、二者連続四球からチャンスを作り、連続PBと八番八島選手、九番塚本選手の連続適時打で3点を返す。何とか突き放したいブルーマーリンズは二回裏、佐藤選手の三塁打などで2点を追加し、やはり今日はいけそうな感じに。ところが現実は厳しく、三回表レッドサンデーズは二番近藤選手の絶妙なバンドヒットで出塁すると、三番前田選手のライト前、四球で無死満塁として、五番増田選手の適時打で1点。さらに六番田浦選手が右中間に満塁HRを放ち8対6と一気に逆転。ブルーマーリンズベンチは重苦しい雰囲気。制限時間も迫った四回裏、ブルーマーリンズは一死後児玉選手がセンター前で出塁。続く末松選手が遊ゴロに倒れるも、打席には今日二安打の佐藤選手。思い切り良く振りぬいた打球は、なんと土壇場で追いつく値千金のセンターオーバー2ランとなった。その後走者を三塁に置きあと1本でサヨナラのチャンスも最後の打者が倒れ、引き分けとなった。勝利は逃したもののブルーマーリンズは今シーズン初の勝ち点を獲得した。（記事・写真：ソルトベイスターズ 田中 裕次郎）



ベンチに励まされながら力投する佐藤投手。



粘投するレッドサンデーズ塚本投手。



初回、セーフティーバンドで攻める川原（正）選手。



ブルーマーリンズ横山（健）捕手、ナイススローで盗塁を刺す。



ゴロを捌くブルーマーリンズ末松三塁手



一回裏、WPで末松選手が先制のホームイン。



二回裏、レフト線に三塁打を放つ四番佐藤選手。



三回表、父の前で満塁HRを放つレッドサンデーズ田浦選手。



捕球して素早く送球するベテラン浜崎一壘手。



懸命に打球を追う井上（紘）二壘手。



後方のフライを好捕する川原（正）遊撃手。



最終回、土壇場で同点2ランを放ち祝福される佐藤選手。

青松園A 最終回の追い上げも・・・両チーム惜しくもドロー

三友クラブ (2勝8敗1分) 7 0 0 0 0 7 足達、矢野一松尾、谷崎
 雁の巣ライナーズ (5勝4敗2分) 3 1 3 0 0 7 有馬一明瀬(航)

3BH : 平田(三友ク) **2BH** : 明瀬(旭)、中口、宇野(雁の巣) **盗塁** : 明瀬(旭)(雁の巣)

初回、両投手ともに不安の立ち上がり。一回表三友クラブは、一番平田選手がセンター前で出塁すると、内野安打と四球から五番谷崎選手のタイムリーヒットで先制する。そして得点を重ね、極めつけに一番平田選手の左中間三塁打まで飛び出し初回到7点を挙げる猛攻。一方ライナーズは、一番明瀬(旭)選手がライトへの二塁打を放つとすかさず三盗し、二番山本選手のヒットで1点を返す。更に三番中口選手がセカンドのエラーを誘い、四番宇野選手が二塁打できっちり2点を返し、初回到3得点の追い上げを見せる。二回以降はライナーズ有馬投手も踏ん張りを見せ、二～四回で許したヒットは2本と、三友クラブに追加点を与えないピッチング。三友クラブ安達投手は二回裏ライナーズに1点を与え、三回裏制球に苦しみ2四球を出した所で降板。すると二番手ピッチャーの矢野投手からライナーズ池内選手が2点タイムリーヒットを放ち、この回3点を追加して同点とする。最終回ライナーズは、五番久保田選手、六番国崎選手の連続ヒットで無死一二塁とするも、七番明瀬(航)選手、八番今村選手を三友クラブ矢野投手が二者連続三振を奪い2アウト。その間パスボールで二三塁となるも九番池内選手の鋭いライナーを三友クラブ山本一壘手が好守を見せゲームセット！ライナーズは最終回到怒涛の追い上げを見せるも、両チーム惜しくも7-7で引き分けとなった。(記事・写真: 和白新町パイレーツ 中島 孝志)



初回7失点を許すも粘りの投球有馬投手。



制球に苦しんだ三友クラブ先発の安達投手。



一回表、先制タイムリーの三友クラブ五番谷崎選手。



一回裏、二塁打を放つライナーズ四番宇野選手。



三友クラブ二番手の矢野投手。



最終回ファインプレーでご満悦の三友クラブ山本一塁手



惜しくもドローでゲームセット。

雁レク軟式4 大量得点の取り合いを制したのは塩浜ジャガーズ！

三苦フレンズ (9勝2敗) 0 7 1 1 0 0 1 0 生野(拓)●、吉村(雄)－佐藤(由)

塩浜ジャガーズ(4勝8敗) 2 6 0 5 0 0 1 3 道喜○－末永

HR：石内(塩浜ジ) 3BH：吉村(雄)、御手洗(文)(三苦フ)

両チームエースが不在の中始まった三苦フレンズ対塩浜ジャガーズ。試合が動いたのは一回裏。ジャガーズ二番田中選手が四球で出塁すると、WPで三塁まで進塁し、三番田中選手の犠牲フライで先制。更に四番山口選手のシングルヒットから四球とWPで追加点を挙げた。反撃をしたいフレンズは二回表、五番篠原選手がライト前ヒットを放つと、続く六番松田選手もシングルヒット。ここで八番御手洗(文)選手の三塁打でランナーが生還！続く九番田中選手のセーフティーバント、一番吉村(雄)選手のプッシュバント三塁打。三番生野(拓)選手、四番佐藤(博)選手もセーフティーバントで、怒濤のバント攻撃でこの回一挙7得点！二回裏ジャガーズの攻撃は九番今林選手が出塁すると一番石内選手が本塁打で2点返した。この勢いに乗り四番山口選手、五番佐藤選手、六霸道喜選手の連続レフト前タイムリーヒットで4点追加し逆転！そうして、試合が動いていく中、四回裏9対8で負けていた塩浜ジャガーズの攻撃。ピッチャー生野(拓)選手の制球が定まらず、四死球で同点に追いついた後、一番石内選手が満塁本塁打を放つ！この本塁打が決勝点となりジャガーズの勝利となった。本日の試合はフレンズの徹底したバント攻撃やジャガーズの大事な場面での勝負強い打撃力でどちらも白熱した試合だった。今後も残り試合が少なくなってきたが、フレンズの繋げていく打線とジャガーズの爆発する打線に注目していきたい！(記事：新町ウインズ 宮原 拓、写真：泉 太一)



試合前挨拶の両チーム。



塩浜ジャガーズ先発の道喜投手。



三苦フレンズ先発の生野(拓)投手。



二回表、左中間を襲う御手洗(文)選手の三塁打。



二回裏、継投として登板した吉村(雄)投手。



本日2HRの活躍、塩浜ジャガーズの一番石内選手。



足を絡めた攻撃、三苦フレンズの一番吉村(雄)選手。



本日のヒーロー

奈多グラウンド 負けられないホーネッツ、執念の勝利！！

三苦ホーネッツ (11勝1敗1分) 220021 7 川原○-広木

奈多クラブ (8勝4敗) 020001 3 今林(瑠) ●-安河内

HR: 馬場口(奈多ク) 3BH: 広木(三苦ホ) 今林(瑠)、安河内(奈多ク)

2BH: 堺(恭)(三苦ホ) 安倍(奈多ク) 盗塁: 堺(恭)、井手(涼)、川原、只松(三苦ホ)

初回、ホーネッツは一番堺(恭)選手が四球出でると続く井手(涼)選手がヒットでチャンスを作ると、四番広木選手が2点タイムリー三塁打を放ちホーネッツが先制する。しかし、後続が続かず2点止まり。二回にも堺(恭)選手、井手(涼)選手のタイムリーヒットなどで2点を追加し4対0。すると反撃したい奈多クラブは、五番安河内選手の三塁打でチャンスを作ると、続く六番の今林(卓)選手がタイムリーヒットを放ち1点を返す。更に八番安倍選手のタイムリー二塁打で1点を追加し4対2。三回には奈多クラブの三番今林(瑠)選手が三塁打でチャンスを作るも後1本が出ず、無得点に終わった。五回、六回表にホーネッツが得点し、7対2として迎えた六回裏、何とか得点したい奈多クラブは、今日の試合2打席ともキャッチャーフライといいところ無しの四番馬場口選手が柵越のHRで反撃の狼煙を上げる・・・も後続が続かずゲームセット。この試合、先制しチャンスをキッチリとモノにできたホーネッツに軍配が上がった。(記事・写真:三苦三球会 半田 晃大)



大一番に円陣を組んで確認をする三苦ホーネッツ。



二回裏、一塁から長駆ホームインの今林卓也選手。



六回裏、一矢報いる左越えHRの馬場口選手。



フレンズが敗れたため、ホーネッツの優勝が決まった。



シーズン最終戦で優勝を決めた三苦ホーネッツの面々。

中村監督、朝川コーチを筆頭に、毎回大人数で試合に臨む層の厚さが強さの秘訣だ。

第22週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第22週、10月21日は4試合が行われました。

青松園Bのレッドサンデーズ対ブルーマーリンス戦は、勝ち星の無いブルーマーリンスが初回到4点をリードするも、3-6で迎えた三回表、レッドは無死満塁のチャンスで1点を返して、70歳過ぎまでサンデーズでプレーした往年の名選手・田浦選手の息子、田浦省平選手が入団第1号の満塁HRで逆転。しかし最終四回裏ブルーマーリンス先発の佐藤投手が自身の失点を取り返す2ランHRを放ち8-8のドロー。レッド塚本投手は血まめを作りながらも完投。

青松園Aの三友クラブ対雁の巣ライナース戦は、初回6安打を集めて大量7点をリードした三友クラブ。楽勝かと思いきや、一回裏からコンスタントに得点を重ねるライナースは、三回裏に2四球からチャンスを作り同点に追いつく。初回こそ打ち込まれたライナース有馬投手だったが、二回以降持ち直し三友クラブを抑え込む。三友クラブは嫌な展開だったが、土壇場最終四回裏、一打サヨナラのピンチを何とかしのぎ、7-7のドローで終了。

雁レク軟式4の三苦フレンズ対塩浜ジャガーズ戦は、優勝のためには負けられないフレンズだったが、大黒柱・エースで四番の山口選手が不在。代って先発した生野（拓）選手だったが、先制を許す。しかし優勝を目指すフレンズの士気は高く二回裏6安打を集めて7-2と逆転。しかし、その裏ジャガーズ石内選手のHRを含む8安打で再逆転を許す。取っては取り返す展開も、四回裏にまたしてもジャガーズ石内選手が満塁でHRを放ち、壮絶な打ち合いを10-13で制した。

奈多グラウンドの三苦ホーネッツ対奈多クラブ戦は、三年ぶり三回目の優勝のために負けられないホーネッツと、三連覇は逃したものの意地を見せたい奈多クラブ。しかし、優勝への士気が高いホーネッツは一回表四番広木選手が2点タイムリーときっちり役目を果たすと、二回表も2点追加。その裏奈多クラブも2点を返すもホーネッツ川原投手がその後を抑える。五回表にまたしても広木選手のタイムリーで追加点を挙げ、終わってみれば7-3でホーネッツ快勝。その後フレンズの敗戦を受け、ホーネッツ今季最終戦で優勝を決め、中村監督の胴上げが見られた。奈多クラブ7安打のうち4本が長打、ホーネッツ8安打のうち5本が内野安打と両チームの持ち味が出た一戦だった。

優勝がかかったホーネッツとフレンズは明暗が分かれる結果となった22週目。今後は個人成績並びにチーム成績も気になるところ。